

非上場の巨大ベンチャー企業「ユニコーン」、 中国などで増殖中

世界には、非上場にもかかわらず、企業価値が10億米ドルを超えると評価される巨大ベンチャー企業が存在します。こうした企業は、「めったに姿を見せない」という意味合いを含め、数年前から、伝説の一角獣として知られる「ユニコーン」という呼び名で表現されるようになりました。ただし、足元では、米国以外の国・地域でも、新たな産業を生み出す巨大ベンチャー企業が次々と登場しており、当初込められていた「ユニコーン」の意味はやや薄らいできています。米調査会社のCBインサイツ(2017年9月4日に取得したデータに基づく)によると、世界に存在する「ユニコーン」213社のうち、米国が約半数(107社)を占めるものの、中国(55社)とインド(10社)で約3割となるなど、アジア発の巨大ベンチャー企業の存在感が高まりつつあります(左表)。「ユニコーン」の株式評価額ランキングをみると、上位10社中、米国の企業が6社、中国の企業が4社ランクインする状況となっています(右表)。

中国では、近年、産業構造の転換と高度化を図るために様々な政策が打ち出されており、起業ブームが起こっています。例えば、製造業の集積地として発展してきた中国南部の都市・深センは、今や「中国のシリコンバレー」と呼ばれ、中国全土から多くの若者を惹き付けているほか、「孔雀計画」と呼ばれる、海外留学組の誘致をめざす深セン市の政策の後押しもあり、「起業の都」となっています。こうしたことが、中国で「ユニコーン」が増殖している背景と考えられます。

米国でみられてきたように、若く、チャレンジ精神旺盛で優秀な人材が集まり、ベンチャー企業が生まれる土壌があることは、国の成長やイノベーションに向けた大きな原動力となります。アジア発の「ユニコーン」の存在感の高まりは、同地域における成長期待を高める要素となるほか、IPO(株式の新規公開)への期待などを通じて、各国の株式市場の活性化にもつながると考えられます。世界のIPO市場が復調する中、2017年上半期は、特に中国でIPOの社数に大幅な伸びがみられることなどを踏まえると、今後、世界の投資マネーが、新しい成長の果実獲得をめざして、アジア地域に向かう可能性が考えられます。

株式評価額10億米ドルを超える非上場企業「ユニコーン」

(2017年9月4日に取得したデータに基づく)



■国別内訳 (ハイライトはアジアの国々)

国名	件数	評価額合計 (10億米ドル)
米国	107	376.4
中国	55	241.4
インド	10	35.5
英国	9	15.3
ドイツ	4	10.0
韓国	3	10.8
スウェーデン	2	11.0
シンガポール	2	9.8
インドネシア	2	3.8
フランス	2	2.7
イスラエル	2	2.7
南アフリカ	2	2.6
スイス	2	2.0
その他	11	14.7
合計	213	739

■株式評価額上位ランキング

	企業名	国名	概要	評価額 (10億米ドル)
1	ウーバー・テクノロジーズ	米国	ライドシェア	68
2	滴滴出行(ディディチュエーション)	中国	タクシー配車	50
3	小米科技(シャオミ)	中国	スマートフォン製造	46
4	エアビーアンドビー	米国	民泊仲介	29
5	スペースX	米国	宇宙開発	21
6	パランティア・テクノロジーズ	米国	ビッグデータ解析	20
7	ウィーワーク	米国	オフィスシェア	20
8	Lu.com	中国	資金管理プラットフォーム	18
9	チャイナインターネットプラス ホールディングス	中国	共同購入サイト	18
10	ピンタレスト	米国	画像共有サイト	12

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

出所: CBインサイツ

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。